

採点基準 世界史

- ※ 以下の加点ポイントは目安です（加点ポイントは< >でくり、得点を○の中に記入）。実際は個々の答案の状況に応じて採点しています。
- ※ 学習の成果を少しでも拾いたいため、部分点はできるだけ与える方向で採点していますが、実際の入試では同じ扱いとは限りません。完全な答案を目指して、しっかり復習しましょう！

I カリフの権威・権力の変遷 (配点 20点)

- ※ 6行目に入っている答案を採点対象とする。
- ※ 15行目に入っていない答案は、加点ポイントを満たしていても満点にしない。(以上IIIも同)

<1 正統カリフ時代>

- ① カリフがウンマの政治的権力を有したこと…1点
- ② カリフがジハード（聖戦）を主導したこと…1点
- ③ 正統カリフ時代にカリフは選挙で決定したこと…1点
- ④ ③の時代に『コーラン（クルアーン）』が形成された（教義が確定した）こと…1点
- ⑤ ③の時代のカリフに宗教的権威は見いだせないこと…1点
- ⑥ アリーが暗殺された（正統カリフ時代が終わった）こと…1点

<2 ウマイヤ朝～アッバース朝初期>

- ① ウマイヤ朝が興ったこと…1点
- ② ①でカリフは世襲になったこと…1点
- ③ ①の血統を認める宗派がスンナ派であること…1点
- ④ シーア派が分派した（スンナ派とシーア派が対立した）こと…1点
- ⑤ ④はアリーとその子孫のみにカリフの正統性（権威）を主張すること…1点
- ⑥ ウマイヤ朝の拡大に伴いカリフに宗教的権威が生じたこと…1点
- ⑦ アッバース朝初期にカリフの政治的権力・宗教的権威が最高潮に達したこと…1点
- ⑧ 最盛期のカリフがハールーン=アッラシードであること…1点
- ⑨ イスラーム世界の政治的権力はシャリーア（法）の執行権であること…1点

<3 アッバース朝中期～滅亡まで>

- ① 9世紀後半以降、アッバース朝が衰退に転じたこと…1点
- ② ①がトゥールーン朝やサーマーン朝など地方勢力の自立によること…1点
※ 「エジプト・ソグディアナ・イランなど」の地名でも可
- ③ ファーティマ朝がカリフを自称したこと…1点
- ④ 後ウマイヤ朝がカリフを自称したこと…1点
- ⑤ 3人のカリフが並立し、カリフの権威が低下したこと…1点
- ⑥ 10世紀（946年）にブワイフ朝がバグダードへ侵攻したこと…1点
- ⑦ カリフは⑥の君主に大アミールの称号を与えたこと…1点
- ⑧ 11世紀（1055年）にセルジューク朝がバグダードへ侵攻したこと…1点

- ⑨ カリフは⑧の君主にスルタンの称号を与えたこと…1点
- ⑩ 大アミールやスルタンは軍事・行政権（政治的権力・世俗的支配権）を有したこと…1点
- ⑪ ⑥～⑩の結果、カリフの政治的権力（世俗権力）が低下したこと…1点
※「カリフが名目上の存在となった（宗教的権威のみになった）」なども可
- ⑫ 13世紀にモンゴル人（フラグ）がバグダードに侵攻したこと…1点
- ⑬ ⑫の結果、カリフ制が断絶（カリフ制度が崩壊）したこと…1点

<4 論理構成点>（=上記加点ポイントの他に、論理展開を意識している答案に与えるプラスアルファの点。論述問題の解答は、単に歴史用語をつなげればよいというわけではないことを受験者に理解してほしいために設けている。解答欄の右下欄外に、「12+R 1=13」などと記している。IIIも同）

- ① <1>・<2>と<3>がバランスよく書けていること…R1点
※<1>+<2> : <3> = 「1 : 1」程度
- ② 宗教的権威と政治的権力について時代ごとに明確に述べられていること…R1点

II A 中国仏教と訳経 B 雲南地方の勢力と中国王朝の関わり（配点 30点）

- ※ 漢字の誤りは不可
- ※ ひらがな表記は不可
- ※ b音をv音で表記しているものは不可
- ※ 音引きの有無や位置が違うものは不可
- ※ 空欄の後の語句を入れてしまった場合は許容（以上IVも同）

A

- b 龍樹 可
- c クマーラジーヴァ 可
- d ナーランダ 可 ナーランダー僧院× 許容
- (2) ゴータマ=シッダッタなど 可
- (3) ヤン=フス 可
- (6) 塔里木盆地 可
- (7) 西羌, チャン族 可
- (8) 天台法華宗 可
- (9) ハルシャ=ヴァルダナ, 戒日王 可

B

- f 司馬子長 可
- g 大理国× 許容
- (13) ティ=ソンツェン 可
- (14)(ア) 上京龍泉府 可
- (15) ピュー人, 驃 可
- (17)(ア) リーグニッツの戦い 可
- (18) 都護のみ 不可

Ⅳ アテネの繁栄と凋落 (配点 20 点)

<1 ペルシア戦争とその後のアテネの状況>

① 民主政が敷かれていたこと…1 点

※ドラコン・ソロン・ペイストラトス・クレステネスらへの言及は、前 7～前 6 世紀の人物なので不可

② 重装歩兵が編制されていたこと…1 点

③ ペルシア戦争が起こったこと…1 点

④ ③はダレイオス 1 世によるもの (アケメネス朝との戦い) であったこと…1 点

⑤ ③の戦争として：マラトンの戦い…1 点

⑥ : プラタイアの戦い…1 点

⑦ : サラミスの海戦…1 点

⑧ ⑦で無産市民が活躍したこと…1 点

⑨ ⑧は三段櫂船の漕ぎ手として活躍したこと…1 点

⑩ ⑦でテミстокレスが活躍したこと…1 点

⑪ (無産) 市民の発言力が高まったこと (政治的地位の上昇) …1 点

⑫ デロス同盟の盟主となったこと…1 点

⑬ 前 5 世紀半ば (アテネ全盛期) にペリクレスが現れたこと…1 点

⑭ ⑬のときに民主政が完成したこと…1 点

⑮ ⑭の具体例：最高議決機関としての民会、直接民主政、官職の抽選、成年男性市民が参加など…1 点

⑯ 民主政が他のポリスにも広まったこと…1 点

<2 ペロポネソス戦争とその後のアテネの状況>

① ペロポネソス同盟が組まれていたこと…1 点

② ①はスパルタが盟主であったこと…1 点

③ ペロポネソス戦争が勃発したこと…1 点

④ 戦争中、ペリクレスが死去したこと…1 点

※「ペストの流行などで市民が困窮した」なども可

⑤ ④の死後、アテネが衆愚政治に陥ったこと…1 点

⑥ ③においてアテネでデマゴーゴスが登場したこと…1 点

⑦ スパルタはペルシア (アケメネス朝) と手を組んだこと…1 点

⑧ アテネが敗北したこと…1 点

⑨ 市民軍が機能しなくなったこと…1 点

⑩ 傭兵が流行したこと…1 点

⑪ ポリス社会が衰退に向かったこと…1 点

⑫ (前 4 世紀後半に) マケドニア王国が台頭したこと…1 点

⑬ ⑫の国王がフィリッポス 2 世であったこと…1 点

⑭ ⑬はカイロネイアの戦いでギリシアを制圧したこと…1 点

⑮ ⑭の結果、コリントス同盟 (ヘラス同盟) が結成されたこと…1 点

<3 論理構成点>

① <1>・<2>がバランスよく記されていること…R1 点

② <1>でペルシア戦争、<2>でペロポネソス戦争の名を明記した上で、その戦争後の社会状況について <1>⑪～⑮のポイント 2 つ以上、<2>⑨～⑮のポイント 2 つ以上が適切に書けていること…R1 点

Ⅳ A 17世紀ヨーロッパの諸国家 B 東方問題におけるヨーロッパ列強 (配点 30点)

A

b 第2次×ウィーン包圍 許容

c フランソワ=マリー・アルエ (本名) 可

(1) イヴァン雷帝 可

(2) ヴェストファーレン条約 可

(3) アンボン事件 可

(4) ペトログラード, レニングラード (時代が違うため) 不可

(6) 2点満点

① ジェームズ2世が専制政治を行った(カトリック復活など)こと…1点

② (議会から招かれた) ウィリアム3世とメアリ2世が即位したこと…1点

※設問の国王は「ウィリアム3世」なので, ウィリアム3世は必須

(8) エメリヤン=プガチョフ 可 プガチョフの乱 不可

(10)(ア) スウェーデン王国 可

(イ) 大北方戦争, ポルタヴァの戦い 可

B

d メフメト=アリー, ムハンマド=アリー=パシャ 可

f サン=ステファノ条約× 許容

(13) ウジェーヌ=ドラクロワ 可

(15) 2点満点

① ダーダネルス・ボスフォラス海峡の獲得を目標とすること…1点

※ 海峡名の言及が1つにとどまっている場合は不可

② 地中海への出口を確保しようとしたこと…1点

※ 西アジア・中央アジア・東アジア方面への南下政策に関する言及は不可 (オスマン帝国に対しての南下政策が問われているため)

(16) 第1次ワッハーブ王国 可 サウジアラビア 不可

(17) 1点満点

① (ギリシア)正教徒の保護を理由としたこと…1点

※「フランスが聖地管理権をオスマン帝国に要求した」なども可

(18) サルディニア王国 可

(19) 2点満点

① 再保障条約 (二重保障条約, 再保険条約) …1点

② フランスを孤立させる体制であったこと…1点

※「フランスに他国との同盟を組ませない」なども可

(20) 完答1点 (順不同)

ルーマニア公国, セルビア公国, モンテネグロ公国 可

※「王国」は不可 (時代が違うので)

以上